

私の好きな 時間

一步一步の先に広がる、 私だけの「幸せ時間」

奈良市公営企業管理者
増田 聡



私の山登りへの入り口は、先輩や同僚たちとの「野歩き・街歩き」でした。元来、体を動かすことが好きで、野球やゴルフ、五十代からはソフトボールに没頭。誘われれば何にでも興味を持ち、のめり込む性分です。奈良の古道や史跡を巡るウォーキングも、最初はそんな軽い気持ちで参加しました。何より、ゴール地点での打ち上げと称し、仲間と酒肴を囲んで語らうひと時は、格別の楽しみでした。そんなある日、仲間から富士山に誘われたことが、私の人生を大きく変えることになりました。

登山初心者にとって、未知の世界は不安だけです。しかし、教わった通りに道具を一つずつ揃えていくと、心はまるで遠足前夜の子供のようにワクワク

と弾みました。2019年9月6日、快晴。富士宮五合目から踏み出した第一歩は、今も鮮明に覚えています。下から見上げる優美な姿とは裏腹に、延々と続く急坂やガレ場。その険しさに圧倒されながらも、七合目を越えた標高3,000メートル付近に到達すると、心地よい疲れが体を包みました。宿泊予定の九合目山小屋に予定より早く着いた勢いで、そのまま頂上へ。そこで目にした、駿河湾から伊豆半島までを見渡す絶景は、私の想像を遥かに超えるものでした。翌朝、雲海から昇る御来光に心を清められ、日本最高峰・剣ヶ峰(3,776メートル)に立った時の感動は、言葉では言い表せません。下山後の温泉と山登り談義に酔いしれながら、私はすっかり山の虜になっていました。



富士山登山道から見た駿河湾と伊豆半島



登山前の富士



富士最高峰剣ヶ峰山頂



北アルプスにて山頂を目指す



北アルプス西穂高岳山頂と雲海



北アルプス西穂高岳の幻想的光景

憧れの北アルプスへの挑戦は、翌年から始まりました。一年に二座を目標に、これまでに多くの名峰を歩んできました。北アルプスの魅力は、富士山とはまた違う、連峰の美しさと険しさにあります。尾根伝いに歩く縦走は、激しいアップダウンに苦しめられますが、時に「空中散歩」をしているかのような幻想的な感覚を味わえます。耳に届くのは風の音と、足元で砂利が鳴る音だけ。流れる時間は穏やかで、一步一步、ただ頂上を目指します。不意に雲海が晴れ、視界がパッと開ける瞬間の光景。色とりどりの高山植物やライチョウとの出会い。そん



登山道に咲く高山植物

な自然の営みに触れるたび、言いようのない感動が押し寄せます。もちろん、下山後の温泉と仲間との乾杯が、登山の魅力をさらに高めてくれるのは言うまでもありません。

山登りは、私の人生観をも変えてくれました。大自然の中に身を置く



北アルプス薬師岳の花畑

と、自分の無力さを痛感します。それと同時に、日常の些細な悩みに囚われることの無意味さを教えられました。登りも下りもありますが、一歩ずつ進んだ先には、必ず「感動」という希望が待っています。支えてくれる家族や仲間へ感謝し、私は今年もまた、覚悟を決めて山へと向かいたいと思います。



北アルプス尾根縦走



立山の風景



北アルプス針ノ木岳山頂

私の好きな
時間

登山

大阪市水道局工務部
元 庭窪浄水場長

土居 史和



甲斐駒ヶ岳

これと言って趣味というものがなかったのですが、ここ10年ほどは登山にはまっています。原点は、小学生の頃に、父に連れられて六甲山や金剛山など近場の山を歩いた経験にあります。ただ、その後しばらくは登山に行くことがなく、どちらかというとな不精な性分でした。

平成3年に大阪市水道局に入り、社会人としての生活が始まった当時、同僚に誘われたことをきっかけにカメラを趣味とするようになり、風景写真などを撮るため外に出かけるようになりました。雪景色の鞍馬山や桜の季節の吉野山を訪れたこともありますが、いずれも数回程度で、山に「登る」というよりも、写真を撮りに景色の良いところに行くというもので、山は眺める対象でした。

やがて、青春18きっぷの利用やインターネットによる宿泊予約が普及し、一人でも気軽に旅ができるようになったことが、私の行動を変えました。出不精であった私も一人旅を始め、列車で東北や九州まで足を延ばすようになり、旅先で風景や祭りなどの写真を撮ったり、現地の居酒屋に行ったりしていました。旅の計画から行動までを自分一人で決めることはワクワクするような体験でした。

また、職場の方に誘われて近場の六甲山や金剛山などに登ったり、旅行を兼ねて公共交通機関で山頂近くまで行ける乗鞍岳や谷川岳にも足を運んだり

しました。さらに、LCCを利用して、蔵王や阿蘇など比較的登りやすい山にも出かけるようになりましたが、登山はまだ旅の延長線上にありました。

大きな転機となったのは、平成26年、北部水道工事センターに在籍していた頃、職場の人に誘われて登った北アルプス・常念岳でした。経験者から初心者まで総勢7名での登山で、何度も休憩を重ねながら、ようやく山頂に到着しました。雲の切れ間から槍ヶ岳の鋭い山容が姿を現し、雷鳥にも出会えた時の感動は忘れられません。本格的な高山を自分の足で登りきる厳しさや、稜線から望む雄大な景色は、それまでの登山とは全く異なるものでした。この一度の登山をきっかけに、初めて自らの意思で山に向かうようになりました。

常念岳以降は、北アルプス、中央アルプス、南アルプスを中心に山行を重ね、カメラを携えて稜線や山小屋、刻々と変わる山の表情を写真に収めながら登山を楽しんでいます。近場の山を除き、遠征する



常念小屋から望む槍ヶ岳



立山の稜線にたたずむ雷鳥



錦秋の長谷川ピーク



三俣山荘から望む夕映えの槍ヶ岳



白銀の赤岳と阿弥陀岳



柵池高原での満天の星空

場合は、山小屋に泊まる山行が中心であり、やがて一泊二日だけでなく、山小屋に二泊、三泊しながら複数の山をつないで歩く縦走にも挑戦しました。縦走では、体力の配分や行動時間の管理、天候の変化を見据えた判断が常に求められ、北アルプスの表銀座や裏銀座など、自分の判断と体力で長い行程を歩ききった時の充実感は大きいものでした。

また、山小屋で出会った登山者から「雪山は夏山とはまったく違う美しさがある」と聞き、その言葉が強く心に残り、冬の山にも挑戦してみたいと思うようになりました。12本爪アイゼンやピッケルなどの雪山装備を揃え、平成30年から本格的な雪山に挑戦しました。最初は不安もありましたが、冬の伊吹山や大山で雪山歩行の基礎を学び、唐松岳、赤岳、甲斐駒ヶ岳などにも足を運びました。白銀に覆われた稜線、凍てついた空気の中で見る朝焼けや夕焼けは、夏山と全く異なる表情を見せてくれました。雪山では、ほんの小さな判断ミスが大きなりスクに

つながります。そのため、天候や雪の状態を慎重に見極め、無理をしない判断を重ねてきました。

かつては日本百名山の踏破を一つの目標として山登りをして、現在までに70数座に登ってきましたが、年齢や体力、山に向き合う時間の変化もあり、すべてを達成することは容易ではないと感じるようになりました。

それでも1年を通じて登山を楽しむことは変わっておりません。冬から春にかけては八ヶ岳や北アルプスなどの山へ、ゴールデンウィークには上高地から沼沢方面に足を運び、5月下旬には残雪期の立山を訪れ、夏には再び本格的な夏山シーズンを迎えるという、季節ごとの山の表情を味わう登山が定着しています。

振り返ってみると、カメラを始めたきっかけも、登山や雪山に挑戦するようになったきっかけも、いずれも人との出会いによるものでした。同僚や山で出会った登山者との何気ない会話や助言が、新しい一歩を踏み出す後押しとなり、自分の世界を大きく広げてくれたのだと思います。

かつては登頂の達成感を求めて山に向かっていましたが、近年は、自然の中をゆっくり歩く時間そのものを楽しむ登山に心境が変わってきました。これからも無理をせず、安全を第一に、一步一步を大切にしながら、山と向き合っていきたいと思います。



槍ヶ岳

2025年度ダクティル鉄管協会セミナーを開催しました

水道事業に関する最新の情報や先進事業者の事例を紹介するセミナーを毎年開催しており、今年度も下記日程・内容にて全国16会場で開催し、会場で1,191名、オンライン配信においても266団体にご参加いただきました。講演頂いた講師の方々にお礼申し上げます。

2025年度ダクティル鉄管協会セミナー 一覧表《全16会場》（一部 web 配信）

支部	開催日・開催場所	講師	テーマ
北海道	10月22日(水) 札幌市	八戸圏域水道企業団 工務課 課長 大嶋 武仁 氏	ICT技術を活用した耐震管の品質管理
		岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島 暢呂 氏	能登半島地震におけるライフライン被害・ 復旧の教訓と課題
東北	10月22日(水) 仙台市	新潟市水道局 技術部長 川瀬 悦郎 氏	新潟市における令和6年能登地震対応 ～ソフトとハードの強靱化～
		金沢大学 名誉教授 宮島 昌克 氏	2024年能登半島地震から学ぶ 水道耐震化の課題
	11月11日(火) 盛岡市	香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐 遠藤 智義 氏	香川県広域水道企業団における 広域連携の取組みについて
		名古屋大学 減災連携研究センター 准教授 平山 修久 氏	過去を学び、これからの危機を乗り越える
関東	8月26日(火) 新潟市	横浜市水道局 担当理事 江夏 輝行 氏	横浜市水道局の取り組み ～料金改定と施設の更新・耐震化～
		筑波大学 情報システム系 教授 庄司 学 氏	巨大地震災害における水道施設の 被害の特徴と今後の施策について ～2024年能登半島地震被害から学ぶべきこと～
	9月4日(木) 水戸市 (web 併用)	香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐 遠藤 智義 氏	香川県広域水道企業団における 広域連携の取組みについて
		金沢大学 名誉教授 宮島 昌克 氏	2024年能登半島地震から学ぶ 水道耐震化の課題
	10月24日(金) さいたま市	公益財団法人水道技術研究センター 調査事業部 主任研究員 小寺 翼 氏	スマート水道メーターの効果と課題 － New-Smart プロジェクトの取組－
		福山市立大学 都市経営学部 准教授 清水 聡行 氏	水道事業の持続性を確保するために

札幌会場（10月22日開催）会場60名が参加



八戸圏域水道企業団 工務課課長
大嶋 武仁氏



岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授
能島 暢呂氏



会場風景

仙台会場（10月22日開催）会場45名が参加



新潟市水道局 技術部長
川瀬 悦郎氏



金沢大学 名誉教授
宮島 昌克氏



会場風景

盛岡会場（11月11日開催）会場55名が参加



香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐
遠藤 智義氏



名古屋大学 減災連携研究センター 准教授
平山 修久氏



会場風景

新潟会場（8月26日開催）会場67名が参加



横浜市水道局 担当理事
江夏 輝行氏



筑波大学 情報システム系 教授
庄司 学氏



会場風景

茨城会場（9月4日開催）会場36名、オンライン配信で36団体が参加



香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐
遠藤 智義氏



金沢大学 名誉教授
宮島 昌克氏



会場風景

さいたま会場（10月24日開催）会場96名が参加



公益財団法人水道技術研究センター 調査事業部 主任研究員
小寺 翼氏



福山市立大学 都市経営学部 准教授
清水 聡行氏



会場風景

2025年度ダクタイトイル鉄管協会セミナー 一覧表《全16会場》(一部 web 配信)

支部	開催日・開催場所	講師	テーマ
関東	12月12日(金) 横浜市	新潟市水道局 技術部長 川瀬 悦郎 氏	施設整備とアセットマネジメント ～アセットの目的と活用～
		岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島 暢呂 氏	能登半島地震におけるライフライン被害・ 復旧の教訓と課題
	1月20日(火) 千葉市	神戸市水道局 副局長 坂田 昭典 氏	施設の更新・耐震化に向けた 神戸市水道局の取組み ～阪神・淡路大震災からの30年間と今後の展開～
		公益社団法人 日本水道協会 総務部総務課 担当課長 二宗 史憲 氏	水道における災害対応 ～「地震等緊急時対応の手引き」R7.3改訂を踏まえて～
	2月4日(水) 東京都 (web 開催)	公益財団法人 日本下水道新技術機構 参与 (前 国交省上下水道審議官) 松原 誠 氏	水道事業のこれから ～水道行政移管の振り返りと今後の展望～
東京都立大学 特任教授 滝沢 智 氏		少子高齢化社会における 水道事業経営のあり方について	
中部	11月20日(木) 名古屋市	珠洲市役所 環境建設課 課長 大宮 準司 氏	“令和6年能登半島地震” 発生直後からの振り返り
		近畿大学 経営学部 教授 浦上 拓也 氏	持続可能な水道事業経営について
関西	12月9日(火) 大阪市	京都大学 大学院地球環境学堂 地球益学廊水環境保全論分野 教授 藤原 拓 氏	持続可能な上下水道実現に向けた 産官学共創の意義
		国土技術政策総合研究所 上下水道研究部 水道研究室長 田嶋 淳 氏	国土技術政策総合研究所上下水道研究部の 取り組み
	1月29日(木) 大津市	京都大学 大学院地球環境学堂 環境調和型産業論分野 教授 越後 信哉 氏	社会や環境の変化と水質管理
		徳島市上下水道局 理事 辻 裕之 氏	とくしま水道の持続
関西・ 中国四国 共催	8月28日(木) 徳島市	京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻 教授 伊藤 禎彦 氏	料金値上げを円滑に進めることを目的とした 市民とのコミュニケーション技術
		明石市上下水道局 水道室長 辻 和也 氏	管路更新効率化の取り組み

横浜会場 (12月12日開催) 会場95名が参加



新潟市水道局 技術部長
川瀬 悦郎 氏



岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授
能島 暢呂 氏



会場風景

千葉会場（1月20日開催）会場 135名が参加



神戸市水道局 副局長
坂田 昭典氏



公益社団法人 日本水道協会 総務部総務課 担当課長
二宗 史憲氏



会場風景

東京会場（2月4日開催）オンライン配信で230団体が参加



公益財団法人 日本下水道新技術機構 参与(前 国交省上下水道審議官)
松原 誠氏



東京都立大学 特任教授
滝沢 智氏



会場風景

名古屋会場（11月20日開催）会場 104名が参加



名古屋市役所 環境建設課 課長
大宮 準司氏



近畿大学 経営学部 教授
浦上 拓也氏



会場風景

大阪会場（12月9日開催）会場 78名が参加



京都大学 大学院地球環境学堂 地球益学水環境保全論分野 教授
藤原 拓氏



国土技術政策総合研究所 上下水道研究部 水道研究室長
田嶋 淳氏



会場風景

大津会場（1月29日開催）会場 80名が参加



京都大学 大学院地球環境学堂 環境調和型産業論分野 教授
越後 信哉氏



徳島市上下水道局 理事
辻 裕之氏



会場風景

徳島会場（8月28日開催）会場 64名が参加



京都大学 大学院工学研究科 都市環境工学専攻 教授
伊藤 禎彦氏



明石市上下水道局 水道室長
辻 和也氏



会場風景

協会ニュース

2025年度ダクタイル鉄管協会セミナー 一覧表《全16会場》（一部 web 配信）

支部	開催日・開催場所	講師	テーマ
中国 四国	11月21日(金) 広島市	中央大学 工学部 人間総合理工学科 教授 山村 寛 氏	PFAS規制の展望と除去・分解技術の現在
		横浜市水道局 施設部長 小西 孝之 氏	水道料金改定と管路更新
九州	10月9日(木) 福岡市	中央大学 工学部 人間総合理工学科 教授 山村 寛 氏	GXとDXで創る健全な水循環による 水道の基盤強化
		公益社団法人 日本水道協会 総務部総務課 担当課長 二宗 史憲 氏	水道における災害対応 ～「地震等緊急時対応の手引き」R7.3改訂を踏まえて～
	11月17日(月) 鹿児島市	千葉大学大学院 工学研究院 融合理工学部 都市環境システムコース 教授 丸山 喜久 氏	近年の自然災害時における ライフライン施設の機能支障
		横浜市水道局 施設部長 小西 孝之 氏	水道料金改定と管路更新

広島会場（11月21日開催）会場 110名が参加



中央大学 工学部 人間総合理工学科 教授
山村 寛 氏



横浜市水道局 施設部長
小西 孝之 氏



会場風景

福岡会場（10月9日開催）会場 101名が参加



中央大学 工学部 人間総合理工学科 教授
山村 寛 氏



公益社団法人 日本水道協会 総務部総務課 担当課長
二宗 史憲 氏



会場風景

鹿児島会場（11月17日開催）会場 65名が参加



千葉大学大学院 工学研究院 融合理工学部 都市環境システムコース 教授
丸山 喜久 氏



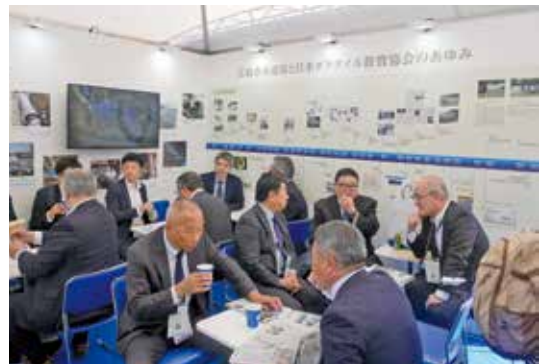
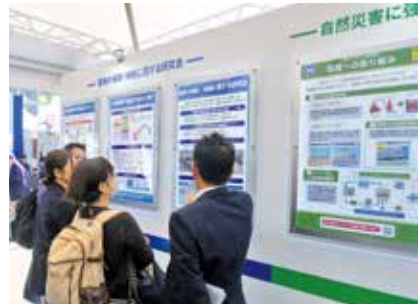
横浜市水道局 施設部長
小西 孝之 氏



会場風景

広島水道展に出展しました。

日本ダクトイル鉄管協会は、2025年10月29日～31日まで開催された「2025広島水道展」に出展いたしました。今回の水道展は、来場者数が13,272名にのぼり、屋外会場ならではの開放感あふれる展示会となりました。ブースコンセプトに『「普段の水」を「不断の水」に』を掲げ、開催地である広島にちなんだイラスト、広島市水道局と当協会のおゆみを紹介するグラフィックなどをあしらい、パネル展示や大型モニターによる動画放映を通じて当協会の取り組みを多角的に紹介しました。また、今回は日本ダクトイル異形管工業会との共同出展ということもあり、実物の直管・異形管を使用し、管路が土中に埋設されている様子を再現する展示を行いました。これらの展示を通じて、水道管路全体に貢献する当協会の姿勢を多くの来場者に広くPRすることができたと考えております。



便覧

資料名	型番	更新月
便覧	第15版	2026年3月



▲
データは
こちら

技術資料 総合編

資料名	型番	更新月
铸铁管類規格の変遷	T50	2025年9月
配水管路における残留塩素濃度確保のための効率的排水システム	T101	2026年3月



▲
データは
こちら

技術資料 特殊工法編

資料名	型番	更新月
ダクタイル鉄管によるPIP工法 設計と施工	T36	2026年2月



▲
データは
こちら

技術資料 農業用水編・下水道編

資料名	型番	更新月
下水道用 ダクタイル鉄管管路 設計と施工	T30	2025年11月
下水道圧送管路における硫酸腐食箇所の効率的な調査技術	T102	2026年3月



▲
データは
こちら

技術資料 継手性能試験編

資料名	型番	更新月
GX形ダクタイル鉄管 呼び径500～1000	T65	2025年11月



▲
データは
こちら

施工要領 耐震継手

資料名	型番	更新月
NS形ダクタイル鉄管 接合要領書 呼び径75～450	W12	2025年6月
GX形ダクタイル鉄管 呼び径75～450	W16	2025年10月



▲
データは
こちら

施工要領 非開削工法用耐震継手

資料名	型番	更新月
PN形ダクタイル鉄管	W15	2026年2月



▲
データは
こちら

水道事業インフラに求められる耐震性・耐久性に貢献するダクタイト鉄管

日本ダクタイト鉄管協会では、市民のみならずみなさまにダクタイト鉄管への理解をより深めていただける内容の展示物・パネルをご用意しております。水道週間や各種イベント等にぜひご活用ください。無償でお貸し出ししておりますので、各本支部までお気軽にお問い合わせ下さい。



失ってからよくわかる...
水のあるくらしのありがたさ



外耐食塗装
(GX形)

長期耐久性



GX形510 ミニチュア (卓上タイプ)

サイズ(梱包時)
W220*H120*D80
約1キロ



新規格

※パネルは全て A1 サイズになります。



耐震継手ダクタイト鉄管の
特性と地震時の挙動

震度7 津波・台風・
豪雨にも耐えた
ダクタイト鉄管

耐震性



下水道



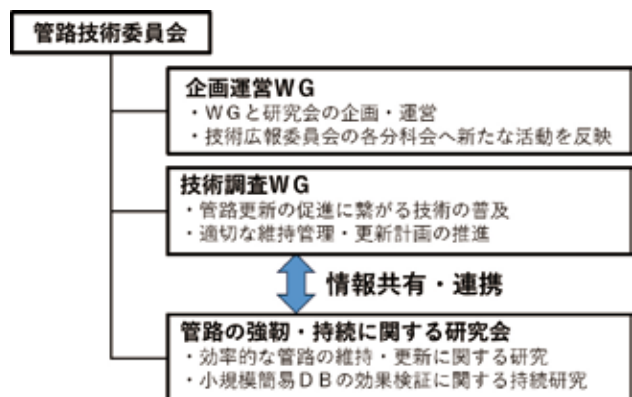
下水道で活躍するダクタイト鉄管

「管路技術委員会」～管路の幅広い課題に対応～

水道事業は技術者不足、財政逼迫等により管路更新が思うように進まず、結果として管路の老朽化が進み、現状の延長で推移すれば、老朽化した管路の延長がさらに増加していくことが見込まれます。これまで、日本ダクタイル鉄管協会では、ダクタイル鉄管の継手や工法の開発、規格や技術資料の整備、技術説明会の開催等、ダクタイル鉄管の普及を主軸に活動してきました。しかし、水道事業における課題は多岐にわたり、特にわれわれが長年携わってきた水道管路が抱える課題は、水道事業体が抱える課題の大きなウエイトを占めています。その課題を解決していくためには、単にダクタイル鉄管を使っていたりするための活動だけでは不十分です。そこで管路技術委員会を発足し、水道管路そのものを今後どのように維持管理し、適切に更新・耐震化していただくか、管路全体の技術にも対象を広げ、活動しています。

■ 管路技術委員会の構成

委員会は、二つのワーキンググループ(企画運営、技術調査)によって運営しています。加えて、「管路更新を促進する工事イノベーション研究会」から名称変更した「管路の強靱・持続に関する研究会」も委員会の組織下とし、ワーキンググループと情報共有・連携しながら活動を進めています。



■ 活動内容

① 水道管路工事の施工管理のDXを支援する取り組み

水道工事業業者においても、高齢化が進み、若手の方の参入減少等により工事の担い手不足が加速しています。また、工事品質を確保するために膨大な工事管理書類が必要となります。これらの課題を解決するために、「施工管理システム」の導入を推奨しています。

携帯端末への施工情報の入力、当協会発行の接合要領書に定められた手順に従って行うため、正しい施工手順で作業を行うことが可能であり、施工品質の確保が期待できます。

入力した施工情報を基に、当協会発行の継手チェックシート、工事日報、実績管割図等の施工管理書類が自動的に作成可能です。そのため、工事業業者による書類作成業務の効率化につながるだけでなく、工事現場で管理数値をメモ書きしてPC上で清書する場合の転記ミス等の不具合防止も図られ、施工管理書類の信頼性向上が期待できます。



②小規模簡易DBの効果検証

日本ダクタイトイル鉄管協会では、水道事業体の技術職員不足が顕在化する中、管路更新の促進を少しでも支援できるような工事の仕組みとして、概算数量により発注し、工事終了後、精算するという事業体の手間を減らした発注方式「小規模簡易DB」を提案し、試行を含め50以上の事業体で実施されています。ヒアリングの結果、下記のような導入効果が得られたとの回答がありました。今後も課題の検証、概算数量等の資料のブラッシュアップ等を行い、管路更新の一助となるよう進めていきます。

事業運営面	<ul style="list-style-type: none">設計積算業務の負担軽減や期間短縮により、工事の早期発注や発注の平準化が図れる限られた技術職員での管路更新の執行の一助となる
地元工事業者の確保	<ul style="list-style-type: none">現行の入札方式で資格要件を変えずに発注することで、地元工事業者の受注機会を維持できる地元工事業者の受注機会の維持により、配管工事や災害対応を含む維持管理業務の担い手を確保できる
配管工事の品質確保	<ul style="list-style-type: none">詳細設計の実施を通じて工事業者の配管技術が向上
その他	<ul style="list-style-type: none">設計積算が短期間で出来るため緊急工事にも利用できる現場条件に合った管割図での材料手配で材料の過不足の軽減既設管の情報が不足する場合でも少ない手間で発注可能

③効率的な管路の維持・更新に関する研究

管路の維持管理から更新計画の策定、更新工事に至る一連の業務の課題について、研究会参加の委員事業体等からの情報や、先進事業体での成功事例や最新技術の取組み事例などを調査発掘し、より効率的な管路の維持・更新について研究しています。

効率的な管路の維持・更新に関する研究 研究テーマ

- 1 有収率の維持向上**（効果の高い漏水調査方法、新たな方法の実績、更新計画への展開方法等）
 - 2 緊急修繕**（体制整備・受付連絡・夜間休日待機・修繕業者確保・契約・工事精算、大規模災害等）
 - 3 管路更新**（更新計画の策定、担い手の確保、不調対策、更新促進の取組み等）
 - 4 人口減少・過疎化**（管路更新や今後の給水区域についての考え方、残塩確保のための捨水削減等）
- その他：国の新しい施策や日本水道協会の指針等の改定など、必要に応じて随時テーマ選定

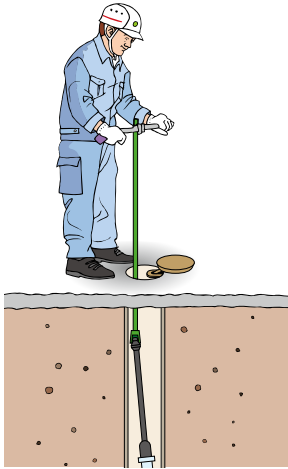
さらに、事業環境に応じた管路の維持管理及び管路更新に向けて、研究会活動の情報発信を行うとともに、研究会を通じた「事業体間の交流促進」として、実務担当レベルでの連携や取組み事例の情報交換の機会作りのサポートにも取り組んでまいります。

日本ダクタイトイル鉄管協会は、管路技術委員会の活動を通して、水道管路の課題を解決し、安全で強靱な管路の持続に貢献します。

<https://www.jdpa.gr.jp/challenge/>



HINODE



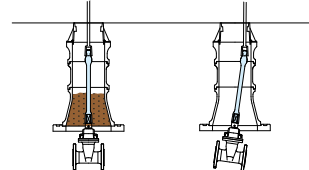
バルブ操作をより確実にする 傾斜対応継ぎ足し棒 BPR

BPR（ボールポイントロッド）は先端にボールポイント構造を採用。バルブが埋没している場合や傾いている場合でも、緊急時や維持管理の場面において、バルブ操作を確実に且つ容易に行うことができます。



ボールポイント構造

バルブが埋まっても斜めでも、バルブ操作が可能に。



バルブが埋没

バルブが傾斜

日之出水道機器株式会社

本社 福岡市博多区堅粕5丁目8番18号(ヒノデビルディング)

BPRの詳しい
情報はこちら



つながるダクタイル

社会をつなぐ。水道をつなぐ。未来へつなぐ。

TOHYAMA TIFアダプター

水圧による離脱なし！ 曲げも伸縮も自在！

高水圧に耐える止水性能 | ±20~40mmの伸縮性能 | 容易な施工時の取り付け

ダクタイル鑄鉄製高性能フランジアダプター 口径75~2600mm WEBカタログ



よろしくね！

遠山鉄工所代表社員
てつお君

株式会社 遠山鉄工所 水と鉄とこれからも
<https://www.kk-tohyama.co.jp>

浄水場・配水池・水処理センターの建設、更新に 丸マークのフランジ形異形管



豊富な管種、安定した品質、確実な納期で九州鑄鉄管の製品は日本全国で活躍しています。

丸九州鑄鉄管株式会社

<http://www.kyuchu.co.jp>

本 社：福岡県直方市大字上新入1660-9

TEL 0949-24-1313

東京支店：東京都千代田区内神田2-7-12 第一電建ビル401号

TEL 03-3525-4551

ホームページで便覧がダウンロード できるようになりました。



そのほか、各種技術資料もダウンロードできます。

(一社) 日本ダクタイル鉄管協会

編集後記

- 巻頭言は、国土交通省上下水道審議官の石井宏幸氏に「思い出の山行」と題してご執筆いただきました。目標への執念と、自然の厳しさを前に下す冷静な判断力は、公共インフラを担う我々の業務姿勢にも通ずるものを感じました。
- 座談会では「広報PRを考える」をテーマに、千葉大学の丸山教授、仙台市水道局、盛岡市上下水道局の皆様にご語り合っていました。仙台市の現場見学会による事業の「可視化」や、盛岡市の「ヒト」にスポットを当てた広報誌の特集など、支える人々の魅力を伝えることで住民とのリスクコミュニケーションを図ろうとする、各事業体の先進的な取り組みが紹介されています。
- 「この人に聞く」では、西宮市の青山弘上下水道事業管理者にインタビューしました。阪神・淡路大震災での復旧体験、そして「受け皿」である下水道が直らなければ水は流せないという「上下水道一体」の視点の重要性は、震災を知らない世代にとっても学ぶべき点が多いものです。また、過酷な漏水事故現場で見せた、職員が連携して難局を乗り切る「現場力」こそ、AIでは代替できない財産であるというお言葉が、深く胸に響きました。
- 技術レポートは、DXや新技術を活用した効率化に資する6事例を掲載しました。半導体工場建設に伴い管路DB方式で工期短縮を実現した千歳市、施工管理システム導入で品質均一化を図る芳賀中部、呼び径500GX形の高い施工性を実証した富士市、概算数量発注方式により設計積算を省力化した長野市、狭隘なさや管内配管を特殊治具で完遂した京都府、小規模簡易DBを本格運用し発注件数の5割に拡大させた鹿児島市。各地の創意工夫は実務において非常に示唆に富むものです。
- 今号を通じて、老朽化や人材不足に対し、強い使命感を持った「人」が技術と知恵を絞り、持続可能な水道の未来を切り拓こうとする姿が浮き彫りとなりました。本誌が、皆様の日常業務や将来の事業運営の一助となれば幸いです。

ダクタイトイル鉄管第118号〈非売品〉

2026年4月13日発行

編集兼発行人 田 村 聡 志

発行所 一般社団法人
日本ダクタイトイル鉄管協会
(<https://www.jdpa.gr.jp>)

本部・関東支部	〒102-0074	東京都千代田区九段南4丁目8番9号(日本水道会館)
		電話03(3264)6655(代) FAX03(3264)5075
関西支部	〒542-0081	大阪市中央区南船場4丁目12番12号(ニッセイ心斎橋ウエスト)
		電話06(6245)0401 FAX06(6245)0300
北海道支部	〒060-0002	札幌市中央区北2条西2丁目41番地(札幌2・2ビル)
		電話011(251)8710 FAX011(522)5310
東北支部	〒980-0014	仙台市青葉区本町2丁目5番1号(NL仙台広瀬通ビル)
		電話022(261)0462 FAX022(399)6590
中部支部	〒450-0002	名古屋市市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)
		電話052(561)3075 FAX052(433)8338
中国四国支部	〒730-0032	広島市中区立町2番23号(野村不動産広島ビル8階)
		電話082(545)3596 FAX082(545)3586
九州支部	〒810-0001	福岡市中央区天神2丁目14番2号(福岡証券ビル)
		電話092(771)8928 FAX092(406)2256

水をつなぐ、 しあわせをつむぐ

安心できる水と暮らしている人のために、
その水をつなぐために努力する全ての人と共に、
日本鑄鉄管は、技術と知識で
安心できる暮らしと構造を実装します。



日本鑄鉄管株式会社

本 社 | 〒104-0045 東京都中央区築地1-12-22 コンワビル ☎ 03-3546-7675
久喜工場 | 〒346-0193 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼一番地 ☎ 0480-85-1101
支 社 | 北海道支社、東北支社、中部支社、九州支社



www.nichu.co.jp

For Earth, For Life
Kubota

ON YOUR SIDE

1890年の創業から「食料・水・環境」の課題解決に向けて歩んできたクボタ。
これからも一步一步、すべての人と心をひとつに、明日へと進み続けます。

株式会社クボタ